

第146回日商簿記3級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	当	座	預	金	受	取	手	形	売	掛	金											
前	払	金	未	収	入	貸	付	金		仮	払	金											
備		品	支	払	手	買	掛	金		前	受	金											
仮	受	金	借		入	貸	倒	引	当	金	備	品	減	価	償	却	累	計	額				
売		上	受	取	手	数	料			固	定	資	産	売	却	益				雑	益		
仕		入	通		信	費				旅	費	交	通	費						支	払	運	賃
租	税	公	課	貸	倒	損	失			固	定	資	産	売	却	損				雑			損

1. 正木商店から商品 ¥ 800,000 を仕入れ、代金のうち ¥ 500,000 は湖月商店振出しの約束手形を裏書譲渡し、残額は掛けとした。なお、当店負担の運送費 ¥ 3,000 は現金で支払った。
2. 不要になった備品（取得原価：¥ 300,000、減価償却累計額：¥ 180,000、記帳方法：間接法）を期首に ¥ 150,000 で売却し、代金は月末に受け取ることにした。
3. 収入印紙 ¥ 5,000 と郵便切手 ¥ 1,000 を購入し、代金は現金で支払った。なお、収入印紙と郵便切手はただちに使用した。
4. 定岡商店に対する売掛金 ¥ 100,000（当期販売分）について、本日、¥ 30,000 を現金で回収し、残額については貸倒れとして処理した。なお、貸倒引当金の残高は ¥ 80,000 である。
5. 従業員が出張から戻り、旅費の残額 ¥ 3,000 と、得意先から回収した売掛金 ¥ 20,000 を現金で受け取った。なお、出張にあたって、従業員には旅費の概算額 ¥ 10,000 を渡していた。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	仕 入	803,000	受 取 手 形 買 掛 金 現 金	500,000 300,000 3,000
2	備品減価償却累計額 未 収 入 金	180,000 150,000	備 品 固 定 資 産 売 却 益	300,000 30,000
3	租 税 公 課 通 信 費	5,000 1,000	現 金	6,000
4	現 金 貸 倒 損 失	30,000 70,000	売 掛 金	100,000
5	現 金 旅 費 交 通 費	23,000 7,000	仮 払 金 売 掛 金	10,000 20,000

・解説

1. 仕入取引・手形取引に関する問題です。

本問は【手形の裏書きに関する仕訳】【掛け仕入に関する仕訳】【運送費に関する仕訳】に分けて考えましょう。

■手形の裏書きに関する仕訳

問題文に「代金のうち ￥ 500,000 は湖月商店振出しの約束手形を裏書譲渡」とあるので、得意先振出しの約束手形の減少→受取手形の減少として処理します。

★解答①

(借) 仕 入 500,000 / (貸) 受取手形 500,000

■掛け仕入に関する仕訳

通常の掛け仕入です。残額 300,000 円 (= 800,000 円 - 500,000 円) を買掛金で処理します。

★解答②

(借) 仕 入 300,000 / (貸) 買掛金 300,000

■運送費に関する仕訳

運送費などの付随費用は、商品を仕入れるさいに不可避免的に発生する費用なので、仕入原価に含めて処理します。

★解答③

(借) 仕 入 3,000 / (貸) 現 金 3,000

以上、①②③をまとめると解答仕訳になります。

2. 固定資産の売却・未収入金に関する問題です。

固定資産は期首に売却する場合と、期中（または期末）に売却する場合とで処理が異なるので、まず問題がどちらに該当するのか確認しましょう。

■期首に固定資産を売却する場合

当期の減価償却費はゼロなので、取得原価から期首備品減価償却累計額を差し引いて売却時の帳簿価額を計算し、さらに売却価額との差額で売却損益を計算します。

$$\text{売却時の帳簿価額} = \text{取得原価} - \text{期首備品減価償却累計額}$$

■期中（または期末）に固定資産を売却する場合

当期の減価償却の処理に関する指示が入るので、それに従って当期の減価償却費を（月割で）計算します。そのうえで、取得原価から期首備品減価償却累計額&当期の減価償却費を差し引いて売却時の帳簿価額を計算し、さらに売却価額との差額で売却損益を計算します。

$$\text{売却時の帳簿価額} = \text{取得原価} - \text{期首備品減価償却累計額} - \text{当期の減価償却費}$$

■本問はどっち？

問題文の「期首に ¥ 150,000 で売却し」から期首に売却したことが分かるので、まずは取得原価から減価償却累計額を差し引いて売却時の帳簿価額を計算します。

$$\text{取得原価 } 300,000 \text{ 円} - \text{期首備品減価償却累計額 } 180,000 \text{ 円} = \text{売却時の帳簿価額 } 120,000 \text{ 円}$$

次に、売却時の帳簿価額と売却価額との差額で売却損益を計算します。なお、売却価額 150,000 円は商品売買以外の取引で発生した債権なので、売掛金ではなく未収入金で処理します。

- ・売却時の帳簿価額 = 120,000 円
- ・売却価額 = 150,000 円
- ・差額 = 30,000 円（帳簿価額 < 売却価額…売却益）

★解答仕訳

(借) 備品減価償却累計額 180,000 / (貸) 備品 300,000
(借) 未収入金 150,000 / (貸) 固定資産売却益 30,000

固定資産の売却に関する問題は、第 102 回の問 2や第 105 回の問 2、第 108 回の問 1、第 115 回の問 4、第 119 回の問 5、第 120 回の問 3、第 122 回の問 5、第 132 回の問 2、第 134 回の問 1、第 135 回の問 3、第 136 回の問 2、第 137 回の問 3、第 138 回の問 2、第 142 回の問 1、第 149 回の問 5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 租税公課・通信費に関する問題です。

本問は、「収入印紙→租税公課」「郵便切手→通信費」という処理方法を知っているかどうかを問うだけの簡単な問題です。

- ・租税公課：収入印紙代、固定資産税、自動車税など
- ・通信費：電話代、切手・ハガキ、宅配便など

なお、期末に残りがある場合は、決算整理仕訳で租税公課・通信費を**貯蔵品**に振り替えます。参考までに仕訳をご確認ください。

☆参考・収入印紙が 1,500 円、郵便切手が 100 円残っていた場合の決算整理仕訳

(借) 貯蔵品 1,600 / (貸) 租税公課 1,500
(貸) 通信費 100

租税公課に関する問題は、第 106 回の問 4や第 107 回の問 2、第 111 回の問 3、第 122 回の問 1、第 125 回の問 2、第 127 回の問 5、第 129 回の問 5、第 133 回の問 3、第 135 回の問 4、第 137 回の問 2、第 139 回の問 4、第 141 回の問 5、第 147 回の問 2、第 150 回の問 5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 債権の貸倒れに関する問題です。

債権の貸倒れは債権の発生時期によって処理が異なるので、まずはいつ発生したのかを確認しましょう。

■前期以前に発生した債権が貸倒れた場合

前期以前に発生した債権は、前期末の決算を通過しているので貸倒引当金が設定されています。よって、この債権が貸倒れた場合は、まず貸倒引当金を取り崩し、それでも足りない場合は貸倒損失で処理します。

☆参考・前期以前に発生した債権が貸倒れた場合の仕訳 1

(借) 貸倒引当金 ××× / (貸) 売掛金 ×××

☆参考・前期以前に発生した債権が貸倒れた場合の仕訳 2

(借) 貸倒引当金 ××× / (貸) 売掛金 ×××

(借) 貸倒損失 ×××

■当期中に発生した債権が貸倒れた場合

当期中に発生した債権は、前期末の決算を通過していないので貸倒引当金が設定されていません。よって、この債権が貸倒れた場合は、全額を貸倒損失で処理します。なお、問題によっては貸倒引当金の金額が与えられる場合がありますが、それはダミーデータです。うっかり取り崩して処理しないように気をつけましょう。

☆参考・当期中に発生した債権が貸倒れた場合の仕訳 2

(借) 貸倒損失 ××× / (貸) 売掛金 ×××

■本問はどっち？

問題文の「**売掛金 ¥ 100,000 (当期販売分)**」から、**当期中に発生した債権**が貸倒れたことが分かります。よって、貸倒れた売掛金 70,000 円 (=100,000 円 - 30,000 円) は**貸倒損失**で処理します。

債権の貸倒れに関する問題は、第 101 回の問 2や第 109 回の問 1、第 116 回の問 4、第 120 回の問 5、第 128 回の問 2、第 139 回の問 5、第 144 回の問 4、第 149 回の問 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 仮払金に関する問題です。

本問は【旅費の仮払いに関する仕訳】【売掛金の回収に関する仕訳】に分けて考えましょう。

■旅費の仮払いに関する仕訳

まず、問題文から旅費に関する部分を抜き出すと「従業員が出張から戻り、旅費の残額 円 3,000 を現金で受け取った。なお、出張にあたって、従業員には旅費の概算額 円 10,000 を渡していた。」になります。

仮払時の仕訳をイメージしたうえで、解答仕訳を考えましょう。旅費交通費 7,000 円は、仮払額 10,000 円から残額 3,000 円を差し引いて求めます。

☆参考・仮払時の仕訳

(借) 仮 払 金 10,000 / (貸) 現金 など 10,000

★解答①

(借) 現 金 3,000 / (貸) 仮 払 金 10,000

(借) 旅費交通費 7,000

■売掛金の回収に関する仕訳

こちらは売掛金を現金で回収しただけなので簡単です。

★解答②

(借) 現 金 20,000 / (貸) 売 掛 金 20,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

仮払金に関する問題は、第 100 回の問 4 や 第 110 回の問 3、第 115 回の問 5、第 119 回の問 4、第 124 回の問 4、第 129 回の問 4 でも出題されているので、あわせてご確認ください。